

第2回 (仮称) 厚別南・青葉地区 義務教育学校検討委員会 議事次第

日 時 令和5年3月29日(水) 10時00分～
場 所 青葉中学校 2階 会議室

○ 配布資料

- ・ 資料1 : (仮称) 厚別南・青葉地区義務教育学校検討委員会 委員名簿
- ・ 資料2 : 品川区立豊葉の杜学園視察結果について
- ・ 資料3 : (仮称) 厚別南・青葉地区義務教育学校校舎レイアウト案

次第

- 1 開会の挨拶 札幌市立青葉中学校 校長 中山 勝喜
- 2 新委員自己紹介
- 3 協議事項
 - (1) 品川区立豊葉の杜学園視察結果について (資料2)
 - (2) (仮称) 厚別南・青葉地区義務教育学校校舎レイアウトについて (資料3)
- 4 閉会の挨拶 札幌市立新札幌わかば小学校 校長 栃尾 美加子

(仮称) 厚別南・青葉地区義務教育学校検討委員会

(令和5年3月29日現在)

| 氏名 | 所属団体等 |
|--------|------------------------|
| 栗生 賢一 | 厚別南町内会連合会会長 |
| 吉岡 敏幸 | 厚別南町内会連合会副会長 |
| 土田 義也 | 青葉町自治連合会会長 |
| 高平 弥生 | 青葉町自治連合会女性部長 |
| 唐原 元嗣 | 青葉中学校PTA会長 |
| 谷内 政昭 | 新札幌わかば小学校PTA会長 |
| 榊井 亜実 | 札幌市青葉児童会館館長 |
| 井上 大樹 | 札幌学院大学人文学部こども発達学科准教授 |
| 本居 文男 | 札幌市厚別南地区センター館長 |
| 中山 勝喜 | 青葉中学校校長 (委員長) |
| 三浦 雅美 | 青葉中学校教頭 |
| 栃尾 美加子 | 新札幌わかば小学校校長 (副委員長) |
| 道佛 智志 | 新札幌わかば小学校教頭 |
| 高橋 謙介 | 札幌市教育委員会 指導主事 |
| 柴垣 孝治 | 札幌市教育委員会 学びのプロジェクト担当係長 |

品川区立豊葉の杜学園視察結果について

1 視察先等について

| 視察日程 | 検討内容等 |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1/16 | <ul style="list-style-type: none"> 品川区立豊葉の杜学園視察（渡り廊下型の義務教育学校） 視察者 吉岡委員、土田委員、谷内委員、中山校長、桂教諭（青葉中）、道佛教頭、高橋、柴垣 |

2 視察概要

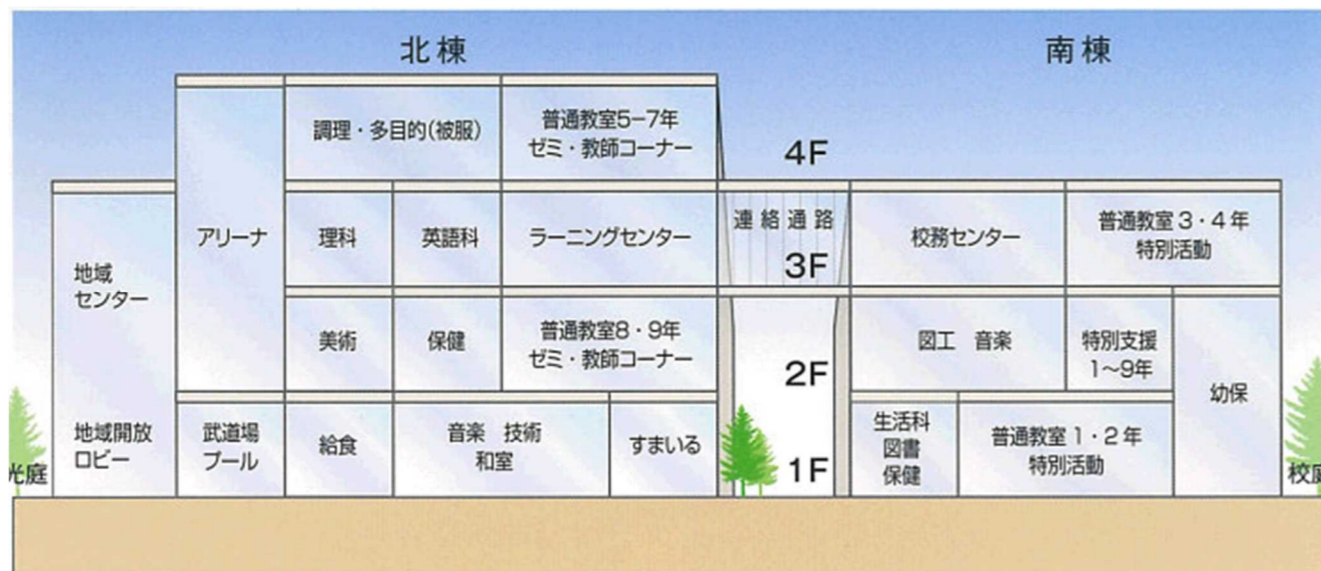
学校の基本情報

- 34学級、児童生徒数1,021人の比較的大規模な義務教育学校

| 学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 7年 | 8年 | 9年 | 特支 | 合計 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|------|
| 人数 | 97人 | 92人 | 92人 | 89人 | 96人 | 92人 | 148 | 134 | 149 | 32 | 1021 |
| 学級数 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 4 | 4 | 4 | 4 | 34 |

- 7年生段階から外進生を受け入れており、後期課程はおよそ半分が外進生である。
- 品川区には小学校31校、中学校9校、義務教育学校6校であるが、全市で小中一貫教育を推進しており、全市で4-3-2の区分として取り組んでいるため、外進生がいても指導区分上は影響しない。
- 義務教育学校ではあるが、外進生が多くいることから、7年生段階で入学式を行っている。また、6年生段階で前期課程修了式も実施している。

校舎について



- 教室配置

3階の渡り廊下で北棟と南棟がつながっており、南棟は1～4年生と特別支援学級、北棟は5～9年生の普通教室が配置されている。

- 職員室の位置

低学年が居住する南棟に配置している。

- 渡り廊下について

- 学校として渡り廊下をデメリットとしては、認識せず、どのようにメリットに変えていけるかを常に考えているとのこと。

EX1. 渡り廊下で区分が変わることを意識させる工夫

EX2. 全学年の通り道になることから、全校生徒に見せたいものを掲示する場所としての設定

- 一方で、北棟での授業が続く場合等については、都度職員室に戻ることは非効率であるため、北棟には教師コーナーを配置し、授業準備等をできるようにしている。また、休み時間等は教師コーナーが教員と生徒たちとの交流の場にもなっているとの話。

- 子どもたちの移動（体育着への着替え含む）には特に大きな支障はないとの話（子どもたちの適応能力はすごいとの話）

<外から見た渡り廊下>



<中から見た渡り廊下>



<教師コーナー>



生徒との交流がしやすいようにオープンな場所となっている。

品川区立豊葉の杜学園視察結果について

○ 体育館

体育館は非常に大きな体育館であるが、1つしかないため、時間割の調整に苦慮しているとのこと。

地域センターと合築となっているが、基本的には学校と地域センターの行き来はできない構造。但し体育館は地域解放時には地域センター側から入るようになっている。

○ その他

◆ 廊下と間仕切りのないオープンスペースが各所にあり、様々な活動に利用しているとのこと。



◆ 教室の仕様は各区分ごとに異なり、1～4年生は比較的普通の教室、5～7年生はフルオープンにできる教室、8・9年生はドアのガラス面が大きい仕様となっている。

◆ CS室

CS室という部屋があるが、CSコーディネーターは職員室に席があるため、作業の時に使用することと講師控室としての利用が主とのこと。CSのための利用としては稼働率は高くないが、教員の打ち合わせには頻繁に利用されているとの話。

コミュニティ・スクールについて

○ 常駐のコーディネーターが配置されており、職員室に席がある。

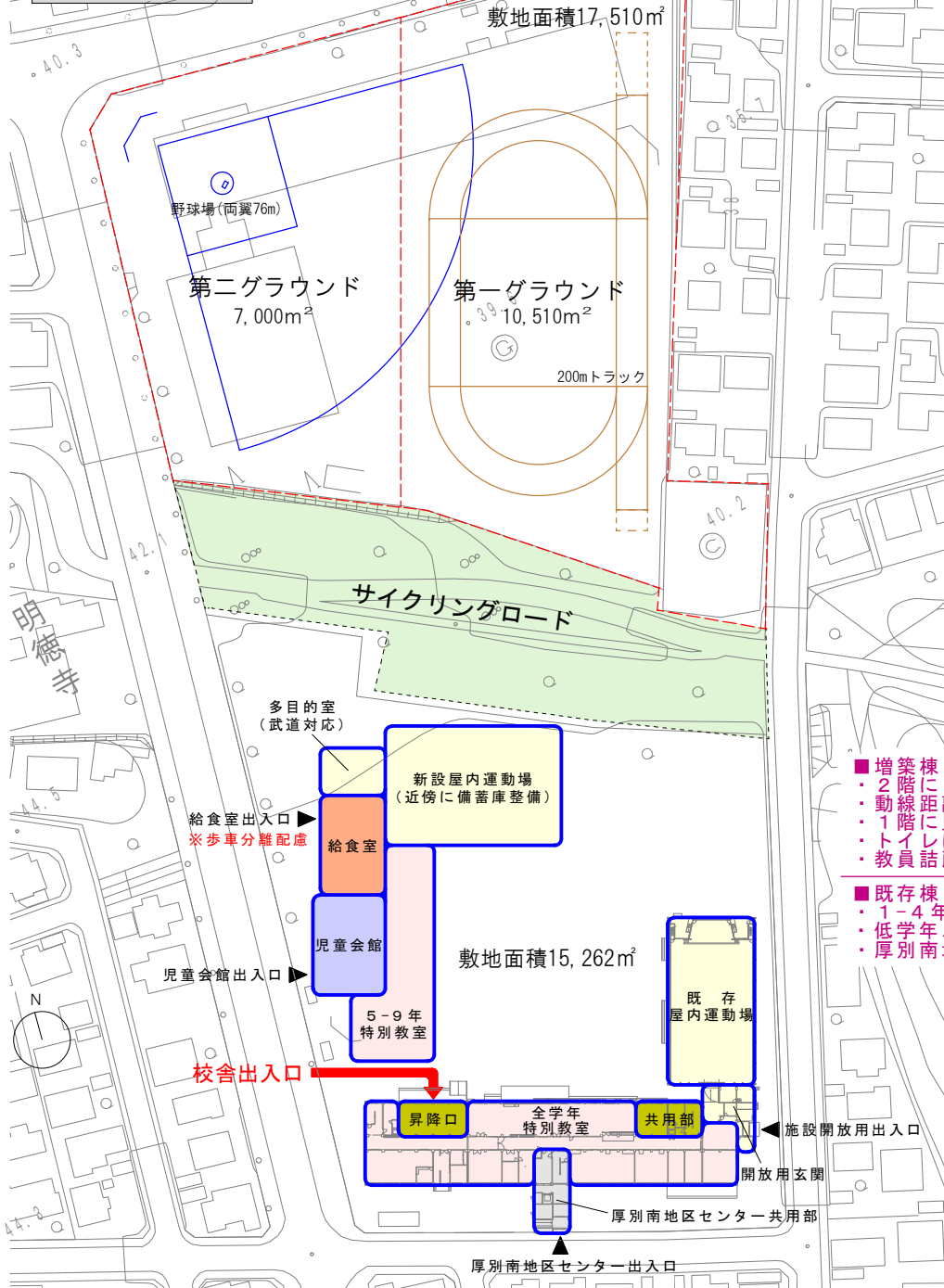
○ 具体的な取り組みは以下の活動のための地域人材の発掘や人材活用のための調整との話

- ・ 科学研究所（個人の科学研究を支援する放課後活動）
- ・ 地域未来塾（放課後補習学習）のまるつけボランティア
- ・ 学校園の作物の雑草抜き、土づくり、種まき、収穫
- ・ 学校掲示板の季節ごとの装飾（折り紙等）
- ・ 図書ボランティア
- ・ 防災訓練

その他質疑応答（主なもの抜粋）

- Q1 特別支援教育の教育課程（6～3年の区切り）等についてどのように対応しているのか
 A 教育課程は小学校段階と中学校段階で分かれている。交流については、行事は通常級と一緒に活動しており、学習面についても特別支援級と通常級との行き来がある。教室配置については、前期課程と後期課程の交流促進の面や後期課程進学時に学習環境に大きな変化が無い方が生徒にとって望ましいと考え、前期課程棟に特別支援学級をまとめて配置している。
- Q2 義務教育学校として一つになるにあたって、4・3・2年の区切りで、それまでの小と中の学校行事、儀式関係、児童会・生徒会活動等をどのように組み合わせるつもりか。
 A 特に学校行事については、必ずしも4・3・2年の区切りだけにとらわれず、目的に応じて組み合わせている。例えば、運動会は人数が多いので1～4年生、5～9年で分けて実施するが、6年生に1～4年生を支える意識を付けるために、6年生がサポートとして運営側の仕事をする。また、9年生の卒業式には、卒業を意識させるために、7・8年生も参加する。また、児童生徒会は5～9年生で実施しており、1～4年生の委員会的な取組も別途設定している。
- Q3 教員の指導の乗り入れについて。8～9年生を教えている教員が1～4年生を教えることもあるのか。教員の負担は実際のところはどうだろうか。
 A 品川区では、小学校と中学校の人事異動が別々にあるため、今いる学校の教員の免許をもとに、乗り入れを検討している。また、3年生から教科担任制を取り入れ、複数の教員で子どもを見る体制を整えており、この取組により学級が安定するようになったと感じている。ただ、中学校教員が低学年を教えることはない。制度的にできないわけではないが、個々の教員の得意な部分を考慮するとそうした取組にはならない。
- Q4 生徒指導に係る指導体制について。校務分掌の在り方（組織的な対応の工夫）やルールづくり（持ち物、服装、髪型、制服）などで留意していることは。
 A 組織で生徒指導することを意識している。校務分掌は小学校と中学校で分かれるものではなく、各校務分掌には小学校と中学校が必ず混ざるようにして、校務分掌のどの取組も、9年間を見通して考えるようにしている。
- Q5 部活の担当はどのようにしているか。
 A 5年生から入ることができるようになっている。また、5・6年生はクラブ活動がある。クラブ活動と部活動で担当を分担している。
- Q6 組織づくりの観点から、学年研修以外の教職員の日々の打ち合わせの方法について（朝の打ち合わせ、放課後の打ち合わせなど）の工夫は。
 A 放課後の打ち合わせは取っていない。毎朝8時～8時15分に校長、副校長、主任、部長などが集まり打ち合わせをしている。8時15分から8時20分には、全体で朝会をしている。1～4年生の先生は朝会については、主任のみ参加として、他の教員は教室にいるようにしている。職員会議は学期に1、2度で30分程度と短くし、その他の連絡についてはメールを活用している。基本的には、大きな方針を朝の管理職ミーティングで決定し、具体的な検討については、各分掌に任せている形。結果として、先生方の業務量の軽減につながっているものと認識している。

配置兼1階平面図

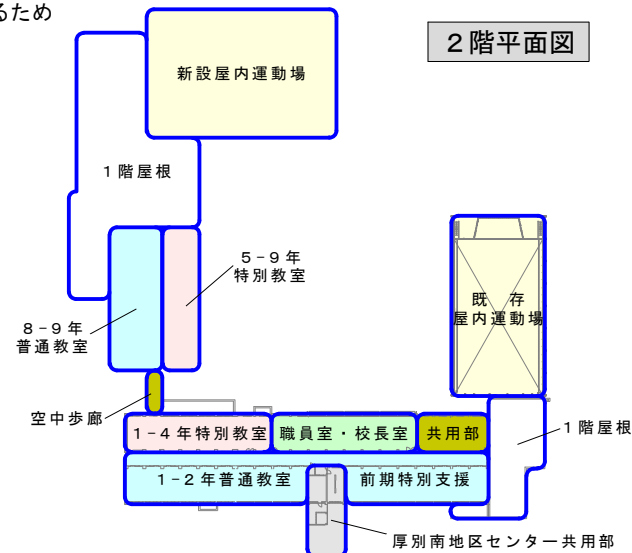


- 増築棟
 - ・ 2階に8-9年生、3階に5-7年生教室整備
 - ・ 動線距離を配慮し、2階空中歩廊接続
 - ・ 1階に児童会館・給食室を整備
 - ・ トイレはジェンダーレスに配慮
 - ・ 教員詰所としてティチャールームを整備
- 既存棟
 - ・ 1-4年生教室整備
 - ・ 低学年、前期特支は管理面で職員室近傍に
 - ・ 厚別南地区センター(既存4階)は改修対象外

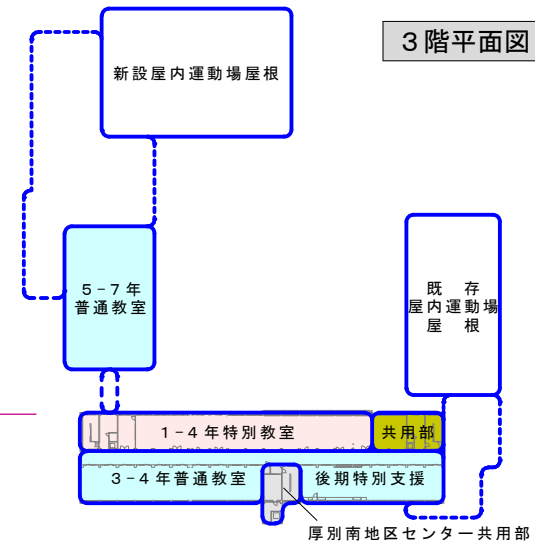
9学年を4-3-2の指導区分とするため棟と階で3ステージをレイアウト
※ステージ名は仮称(学校が決定)



2階平面図



3階平面図



新築等想定スケジュール(※最短)

| 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度~ |
|--------------------|--------------------|--------------------|------------------------------------|
| R5.4~R5.11 基本設計 | R5.12~R7.1 実施設計 | R7.2~R7.6 プール解体 | R7.10~ 校舎棟・屋内運動場増築 既存校舎改修 など |

※配置・平面案、スケジュールは想定のため、今後の検討内容により予定変更となる可能性があります。